

**NEWS RELEASE ( 2006 / 10 / 20 )**

**アジア理解講座の開催について**  
「アジアの市民社会と国家 - NGO 活動の現場から - 」

**概要**

グローバル化が進行する中で、世界規模での市民社会の台頭が見られます。NGO は、アジアの市民社会の担い手として、開発や平和、人権や環境など様々な分野において活躍しています。市民社会と国家はどのような関係にあるのでしょうか。また、政党政治や宗教とはどのように関わるべきなのでしょうか。「NGO 大国」といわれるバングラデシュとフィリピンから研究者兼 NGO リーダー兼詩人のパネリストを迎え、貧困や紛争などの社会矛盾が噴出する中で活動しているアジアの市民社会が抱えている課題と今後の方向性について討議します。

**背景**

グローバル化が進行する昨今、アジアの国々でも市民社会の台頭が見られている。このような状況下、NGO は、アジアの市民社会の担い手として開発や平和、人権擁護や環境保全など様々な分野での活躍が顕著である。今回はバングラデシュとフィリピンで長年、NGO 活動をリードしている二名を迎え、活動に実際に携わっている視点からお話しいただく。

**内容**

パネリストとしてバングラデシュからモヒウディン・アフマッド氏（NGO 団体 Community Development Library 代表）、フィリピンからアルバート・アレホ氏（アテネオ・デ・ダバオ大学教授）をお招きする。アフマッド氏からは「バングラデシュの市民社会と国家」と題して、バングラデシュの市民社会の形成と貧困やジェンダー等に取り組むバングラデシュの NGO が抱える課題についてお話しいただく。アレホ氏からは「宗教、文化と紛争 - ミンダナオの平和への取り組み」と題して、キリスト教徒とイスラム教徒の対立が続くミンダナオにおいて、宗教と紛争の関わりを市民社会の視点からお話しいただく。コメンテーターはアジア総合政策センター教授の大野俊氏、司会は同助教授の小川玲子氏。

**効果**

日本でも多くの NGO 活動がなされ、人権、人道援助、環境、宗教、平和、女性問題等々を幅広く扱い、行政とも企業とも違う重要な役割を担っている。この講演会では、「NGO 大国」と称されるほど NGO 活動が盛んなバングラデシュとフィリピンで活動を続けている現場の第一人者からお話をうかがうことで、現況や課題、さらに今後の NGO の在り方も検討する。また、研究者であり、NGO 代表であり、文学者でもあるお二人のお話を伺うことで、今後日本の市民社会と国家との関係、さらに NGO や政府が果たす役割はなにかを考えるきっかけとする。

**今後の展開**

アジア総合政策センターでは、活動理念の1つに「アジアに開かれた市民社会の形成・支援」を掲げている。これまでも、第2回アジア塾として「NGO、大学そして自治体のコラボレーション - 三位一体の国際協力 - 」(2006年3月)を主催する他、地方自治体や国際協力団体と協力して活動を行ってきた。今回のアジア理解講座は、九州大学教職員及び一般市民にアジアの現地からの視点を提供することで、国際協力活動の裾野と視野を広げることを目的とした試みの一環である。

**【お問い合わせ】**

アジア総合政策センター 教授 坪田 邦夫

電話 : 092 - 642 - 7096

FAX : 092 - 642 - 4435 (事務室)

Mail : tsubota@isc.kyushu-u.ac.jp



世界規模で市民社会が台頭する中で、NGOは開発や平和、人権擁護や環境保全など様々な分野で活躍しています。市民社会と国家はどのような関係にあるのでしょうか。「NGO大国」といわれるバングラデシュとフィリピンから研究者兼NGOリーダー兼詩人のパネリストを迎え、アジアの市民社会が抱えている課題と今後の方向性について討議します。



九州大学アジア総合政策センター アジア理解講座

# アジアの市民社会と国家

～NGO活動の現場から～

*The Civil Society and State in Asia - Voices from the NGOs*

日時：2006年11月14日（火）

17:00- 19:00（16:30 開場）

会場：九州大学 国際ホール

（箱崎キャンパス 留学生センター内）

## ■パネリスト

モヒッティン・アフマッド（バングラデシュ）

「バングラデシュの市民社会と国家」

アルバート・アレホ（フィリピン）

「宗教、文化と紛争—ミンダナオの平和への取り組み」

## ■コメンテーター

大野 俊（九州大学アジア総合政策センター教授）

## ■司会

小川玲子（九州大学アジア総合政策センター助教授）

●申し込み方法：ファックスまたはE-mail で次の事項を下記までご連絡ください。

①氏名②ファックスまたはE-mailアドレス③所属

※お申し込み後、確認の案内はお送りしません。

当日は直接会場にお越し下さい。

【申し込み・お問い合わせ】九州大学 アジア総合政策センター

Fax: 092-642-4435 [asia@isc.kyushu-u.ac.jp](mailto:asia@isc.kyushu-u.ac.jp)

主催：アジア総合政策センター



# アジアの市民社会と国家

—NGO活動の現場から—

*The Civil Society and State in Asia -Voices from the NGOs*

## ■パネリスト：

モヒウディン・アフマッド Mohiuddin Ahmad (バングラデシュ)

Community Development Library 代表

バングラデシュのNGOリーダーとして70年代後半から開発の分野に関わり、現在は、1980年に自身が創設した、記録・情報コミュニケーション・研究・政策提言などに関わる全国規模のNGOであるCommunity Development Libraryの代表を務める。また、Asian Regional Exchange for New Alternatives (ARENA)、南アジア貧困撲滅同盟 (SAAPE)、ジュピリー・サウス (アジア・太平洋地域) などアジア域内の代表的なNGOでも活躍。研究者として、また詩人、コラムニストとしても活躍しており、詩集、小説、研究論文、エッセイなどあわせて28冊の著書があり、ベンガル語と英語の両方で執筆を行っている。



アルバート・アレホ Albert E. Alejo (フィリピン)

アテネオ・デ・ダバオ大学教授

イエズス会司祭であるアレホ氏は、マニラの労働者グループと共に活動した後、ロンドン大学東洋アフリカ学院で人類学の博士号を取得。母語であるタガログ語で語る詩人／哲学者でもある。現在はミンダナオ島で自身が主宰するMindanawon Initiatives for Cultural Dialogueを通じて、先住民の擁護やムスリム市民社会との対話などに取り組む。また、全国的な汚職反対運動として注目されてきているEhem!の代表や、氏が設立したAmuma Cancer Support Groupの指導なども行う。アテネオ・デ・ダバオ大学で人類学、哲学、開発研究の教鞭をとり、同大学研究出版局所長も務める。



## ■コメンテーター：

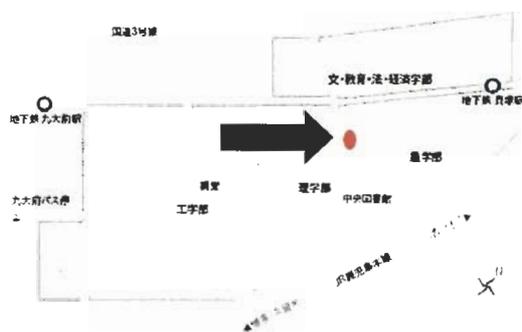
大野 俊 Shun Ohno (九州大学アジア総合政策センター 教授)

九州大学理学部を卒業後、毎日新聞社で記者として20年余り勤務。この間、マニラ支局長、経済部副部長などを務める。国立フィリピン大学で修士号、オーストラリア国立大学で博士号(東アジア・東南アジア研究)を取得。フィリピン大学客員教授、豪州・アジア太平洋社会変容研究所研究員などを経て、今年10月から現職。著書に『ハポンーフィリピン日系人の長い戦後』『観光コースでないフィリピン』(単著)

『Japanese Diasporas』『日本経済再生の条件』(共著)などがある。

■司会: 小川玲子 Reiko Ogawa (九州大学アジア総合政策センター 助教授)

### ▼会場案内地図 (九州大学国際ホール)



九州大学アジア総合政策センターでは、アジアの国々や文化、また、現代アジアの最新情報などをわかりやすく一般市民の方々へ紹介するため、「アジア理解講座」を定期的で開催しています。「アジア理解講座」も含めた九州大学が発信するアジアに関する情報は、アジアセンター友の会メールマガジンにご登録いただきますと、定期的にお送りいたします。

◆九州大学アジア総合政策センター◆

tel:092-642-4433 fax:092-642-4435

<http://asia.kyushu-u.ac.jp>